

## ジャムセッション虎の巻！！

こんにちは、この度はMoriMusic.TVに会員登録頂きましてありがとうございます。  
この特典では、僕の今までの経験を総動員してジャムセッションのみならず、バンドアンサンブル、ライブなどにも役立てる事ができるように色々書いてみました。  
是非参考にしてください！

### ★人気者になろう！

ギターっていう楽器は音域も演奏上の特性も他の人と演奏することが多いと思います。  
言ってみれば、アンサンブルの一員として持ち味を発揮するタイプの楽器ですね。  
いくらギターソロが弾きたくても、バンドで演奏している時はバックキングをしている時間の方が普通は多いですね。

そこらへんを考えると自ずとどういう演奏をすると人気者になれるかが分って来るはず  
です。

自分は人気者になる必要はない！という方はちょっと考えてみてください。

良いギターだなんて思われると人から誘ってもらえる機会が増えます。という事は、露出も増えて、更に多くの人に知ってもらえます。

自分よりもレベルが上のプレイヤーと演奏することが一番の上達の近道ですし、逆にへたくそなドラムやベースと一緒にやっていると、いくら自分が上手くても演奏が拷問になってしまいますよね。

なので、ここは是非ひねくれずに人気者になってください！！

### ★ギターの役割

というわけで、まず最初は、ギターがどういう役回りなのかを考えてみましょう。

とりあえず、ジャムセッションに来たとします。

楽器の編成は、多くの場合、

ドラム、ベース、鍵盤、ギターの4ピースがリズムセクションの基本だと思えます。この上に歌やサクソなどのうわものが乗ります。

この場合、ギターはリズムのスパイスの提供と、ちょっとしたフレーズを入れたりするのが一番おいしいと思えます。

ギターのリフがもともと中心の曲は勿論それを弾く事になりますが、そうじゃない場合は、コードのカッティング、コードのコンピング、複音のオブリ、単音のフレーズなどを弾く事が多いです。

スローな曲で鍵盤がメインのバックキングをする場合は、コードをバックビートでヒットして、ほとんど隙間にしてしまったり、思い切ってオブリを弾いたりします。

## ★リズムギターで人気者になるコツ色々

コードのカッティングも、3音か4音程度の薄い和音にして鍵盤とかぶらないようにすると人気です。本編のビデオでそういうレッスンもありますが、アンサンブルをよく聴いて、ここは弾けると思ったポイントで思い切って弾く事が重要です。

あんまり控えめだと、弾かなくても良くなっちゃうので。

>>どのファンクバンドを聞いても良いですが、Princeの” Kiss” がよくギターが聞こえるので、是非聞いてみてください。

あと、非常によくあるんですが、曲のコード進行もきちんと把握できてない場合には、単音のリフがおすすめです。

その曲のキーの特定は何とかしなくてははいけません、そのキーのペンタトニックを使って、ミュートをかけた音でリズムックにリフを作ります。

実際、ギターの役割でかなり重要なテクニックになります。

>>Michael Jacksonの70年代から80年代前半のヒット曲どれでも良いと思います。Paul Jackson Jrがギターを弾いているんですが、どれも良い練習素材になると思います。

ミュートも右手ミュートは基本ですが、逆にもっと弦のネック寄りをしっかりと弾くようなパターンもありです。

単音なので、ペンタ中心にフィーリングでチャレンジしても、まず失敗はないと思います。

慣れて来たら、ベースのフレーズにちょっとシンクロしたラインを弾いてみたりすると、もうベーシストも笑顔になって人気です！

リフのリズムのパターンは、基本的にはドラムを良く聴いて対応しましょう。

ドラムが細かい場合は、ギターはスペーシーに、逆にドラムがバックビートのみのシンプルな感じだとギターは細かく弾いたほうがカッコいいです。パーカッションを叩いていると思ってやると良いと思います。

ドラムのビートにキャッチーな仕掛けがある場合、それに合わせてみましょう。

ドラマーからも人気に！

つぎに、ポケットを弾く、というのも地味ですが人気のポイントです。

ポケットとはリズムのグルーブのなかでのバックビートの位置の事ですが、よく昔のソウルミュージックとかで、2、4拍目の頭に、「チャッ！」とコードを弾いているギターを聴きますよね？それです！

これは大きく音楽を感じながら、思い切って（自分を信じて）弾きます！！

普段音楽を聴く時からポケットを感じる事が大切です。

でも、思い切って弾いてください。オレが正しい！位に。

コツとしては、焦らないこと。いくらバンドが盛り上がっても、気持ちは上げつつ、イメージの中で誰かがシャツの裾を後ろに引っ張っているような感覚でいてください。

ギターがドラムより早いタイミングでリズムを弾くと非常にかっこわるいです。

（あと、他のタイプの演奏をしている時でも、常にポケットを感じさせる演奏をす

ると評価上がります)

分る人にはとても評価されるポイントなので、頑張ってください！

その後で、複音のリフもチャレンジしたいところです。

これは、ポップスやR&Bでは、定番になっている奏法ですから、出来ると「お！知ってるね〜」となること請け合いです。

往年のR&Bやファンクバンドを色々聴いてみると、おいしいリフが沢山でてくると思います。

>>The Gap band の” Yearning for your love” のメインリフが3度のハーモニーをうまく使うのに練習としては良いと思います。

あと、カッティングのノリについても。

これは、さっきのバックビートを弾くというところでも触れましたが、ギターはビートの最後に若干遅れて弾くような感じです。重たく弾くというのかな。

これも感覚の問題ですが、実際ドラムと同じタイミングで弾くとまずグルーブしません。ジャストで弾いてもいいグルーブもありますが、8割以上は遅く弾きます（レイドバックといいます）。

最近のR&Bやネオソウルと呼ばれるものは、基本このグルーブを強調したもののなので、是非身に付けてください。

>>全然最近ではありませんが、The Metersの” Cissy Strut” でのカッティングを聴いて見るとよく分るとおもいます。めちゃくちゃ遅いタイミングで弾いてグルーブしています。

もうひとつ大事なのが、バックングパターンの構築です。

大体のポップスやR&Bでは、4小節単位で大きくパターンを作るとうまく行くと思います。

1小節単位の、リズムパターンを繰り返しつつ、2小節目の最後にちょっとしたフレーズ、4小節目の最後にもう少し別のフレーズを入れます。

で、その4小節分のパターンをひとつの塊に感じて弾いて行きます。

こういう大きな塊をうまく感じつつ演奏すると、他の人にもよくわかりますし、合わせてくれたりもします。

かなり人気ができるポイントだと思います。

あとは練習あるのみです。正しいノリをだせるようにひたすら繰り返します。

ただ、メトロノームだけで練習をしてもノリをつかみにくいので（最初はコントロールを学ぶために使っても構わないですが）、本物のドラムのグルーブで練習するのが良いでしょう。

自分の好きなCDや音源でジャムっていくのが一番の近道です。

あと実際にジャムセッションに行ってみましょう。その際自分の演奏を録音するのも忘れずに！

自分であとでチェックしてみて、気に入らないノリで弾いてる部分はどうしてそうなっ

ているのか分析しましょう。

今後の練習のポイントになります。

こればかりは数をこなすしかないので、ちょっとくらい凹んでも次へと切り替えてチャレンジしてください。

あとあんまり経験のないリズムセクションで弾くと、良くないノリの原因はあなたではなかったりもしますので、なるべく上手な人を見つけてセッションしましょう！

ざっとここまで来ましたが、大体これくらいのノウハウを身につけておくと、セッションにいてアンサンブルすることに関しては誰からも文句はでないでしょうし、うまく出来るようになると沢山仕事のオファーが来るようになると思います！

### ★曲を覚えよう

次に実際にジャムセッションでは有名で割と単純なつくりの曲をよく演奏します。

これは、打ち合わせも要らないので、便利だからです。

稀に、何の打ち合わせもなくドラムとベースがグループだしてフリースタイルでジャムすることもあると思いますが、大体は曲とキーをきめます。

そんなわけで、それぞれのジャンルで有名な曲を知っておくと非常に便利です。

その時に、実際のコードだけじゃなくて、キーが変わっても対応できるように度数で覚えておくと更に良いですね。

ボーカルが入る場合、対応しないと行けなくなる時があります。

例えば、What's going onは、EM7-C#m7-F#m7-A/B とか覚えずに、IM7-VIm7-IIIm7-IV/V と覚えた方が応用がききますね。

勿論、昔の名曲の他にも最近流行っている曲も知っていると便利です。

実際にどの曲を覚えたら良いかは、そのセッションで周りに聞いてみましょう。

余り曲を知らないうちは、「何やる？」という話になった時に自分で知っている曲を提案するのが良いと思います。

### ★ジャムセッションでの作法

ちょっと演奏からはそれですが、ジャムセッションって社交の場でもあるので、ある程度の社会性も必要ですよ。

まあ、当たり前のことはそれぞれ皆さんの常識で良いと思いますが、みんな楽しみに来ているので、楽しく人と接するのは大切です。

アメリカだと、案外ほんとに演奏が良ければ認められる事もありますけど、日本だとまず人間が良くないと色々難しいです。

気軽に挨拶してみてください。

案外重要です。

というのも、実際ステージで演奏する時は、お互いコミュニケーションをとって演奏するわけですから、演奏前に挨拶くらい感じよくしておいた方がスムーズです。

色んなジャムセッションがありますので、例外もありますが、大体、ホストのバンドがいます。

なので、最初に彼らに挨拶にいきましょう。自己紹介してギターを弾く事、セッションに参加したいことを伝えればOKです。

多くのジャムでは、ホストバンドが参加者をコーディネートして仕切ってくれますので、あとは他の人の演奏を楽しみつつ名前が呼ばれるまで待っていれば大丈夫です。

そこまでオーガナイズされていないジャムの場合は、ホストギタリストにコミュニケーションしてステージに上げてもらうのが良いでしょう。

あと、早めに到着しておくのと、早めに演奏できるので、良いと思います。

折角交通費や参加費も払って、演奏できなかつたら無念です。

ちなみにアメリカではよくあります。涙

慣れてないうちは、知らない曲をやらされないように注意してください。

知っている曲を提案して、それにしてもらおうようにしましょう。

あと、1曲は弾かせてもらえますが、あとは運次第ですから、その1曲で悔いが残らないようにやれることはやりましょう。

遠慮しすぎないようにするのもコツです。

ソロ弾けそうなタイミングでは、思い切って弾き始めちゃってください。もし誰かとかぶったら、それはその時に引けば別にオッケーです。

特に歌の人がいる場合は、そういうミュージシャンシップを全く理解してない人も多いので、勝手に曲を終了させられてしまうこともあります。

そうなる前にソロをとりましょう！笑

実際の演奏で気をつけたいのが、他の演奏者との共同作業をしているという意識を持つ事です。

演奏で会話をしているような感覚を忘れないでください。

全て音で埋めずに、周りを良く聴いて反応します。

ソロも、少し弾いては周りの反応を聴きましょう。運良くいいプレイヤーがいる場合は音楽的な会話を楽しむことが出来ると思います。

そういうことが出来るのが示せると、ホストバンドの人たちもすぐに気付くと思います。ということは、「君は残ってもう1曲弾いて」といわれることだってあるわけです。

演奏の後も出来る限り最後までこのって色んな人に覚えてもらうと良いです。

次回から来易くなりますしね。

## ★ジャズのジャムセッションの作法

わざわざ別項目作りしましたが、ジャズは案外固有の作法があるんですね。

まず、ピアノがいる場合、ギターはコードをほとんど弾きません。

これはピアノとギターの音域と音色が近いために、アンサンブル上ぶつかり易いのと、テンションコードなどで音楽的にぶつかり易いからです。

なので、ギターは弾かないか、アクセント程度に3度と7度の音を弾くくらいで良いです。

あとは、リフを作ってひくとか、オクターブでアクセントを入れることもありますね。

全く弾かないのも全然OKです。サクセスにでもなったと思えば良いと思います。

あと全体の流れが決まっています。

イントロ（ピアノが主に担当）

↓

テーマ演奏（これはギターも弾けるようにするのが良いですね）

↓

アドリブ（主に、サクセスやトランペット、ギター、ピアノ、ベースの順）

↓

a) ソロ楽器とドラムの4バースもしくは8バース（だれかがソロが4もしくは8小節アドリブして、そのあとドラムが同じ長さソロをとる）

b) ドラムのオープンソロ

↓

テーマ演奏

↓

エンディング

という感じです。

4バースになるか、ドラムのソロになるかはその時の状況ですね。

誰かがベースソロ終わった後にまたソロ弾き始めたら、それは4バース系になる合図ですね。

ソロの長さですが、ブルース系は何コーラス弾いても構いませんが、歌ものと呼ばれる構成がしっかりあって1コーラスが長いものは1コーラスで十分だと思います。

難しいですが、自分でソロの起承転結をコントロールできるようにすると良いですね。

言うべき（弾くべき）事が無くなったら、もうやめておくのが良いです。

あと、コツというわけではありませんが、ギターはブルージーな楽器ですから、ブルースフィーリングのあるフレーズをどこかにいつも入れるように心がけると良いと思います。

ジャズだからといってバップフレーズばかり弾く必要はないです。

---

さて、ざっと色々な状況も想定してお話させて頂きました。  
あくまで予備知識です。普段の練習の時に念頭に置くと良いと思います。  
実際に演奏するときは、ルールはルールとして知っておきつつ、自由に楽しんでください。  
フレキシブルにニュートラルに楽しんでいけば、それが一番です。  
細かい事は少しずつ達成できれば全然OKです。

というわけで、MoriMusic.TVへようこそ！  
是非活用して、より楽しいミュージックライフを送ってください。

森孝人